

# 総務企画防災常任委員会行政視察報告書

平塚 茂

## ○愛知県岡崎市

### ・平成20年8月末豪雨災害後の防災対策の取り組みについて

#### 【所見】

岡崎市においては、平成になって数度豪雨災害が発生している。また地震災害に対しても、安政東海地震、東南海地震など、その危険性が指摘されている地域であり、防災対策に対してはかなり進んだ対応がなされているようである。

まず地震災害に対しては、岡崎市が作成したDVD映像を拝見させていただいたが、夕食後に家族がくつろいでいる時間に大地震が発生し、家族が家具の下敷きになってしまったり、ガラスの破片で足を傷つけながらも必死に家族を助け出そうとする姿など、ショッキングな映像で地震の恐怖を実感できた。市民に地震対策をしなければと思わせることができる効果のある映像だと感じ、足利市でも採用できたらと思った。また住民で相談し、町内単位の細やかな防災マップを作成した事例については、今後大規模災害に対し、自助、互助、近隣住民の助け合いを効果的に実施するための方策として大変よい取り組みをされていると感じた。

住民の危機意識を高めるためにはどのようなことが必要かとの問いに、「災害に遭わなければ、危機意識は生まれにくい」という、本音、現実の意見が聞かれたが、確かに足利市においては、やはり「安全なまち足利」という考えが市民意識に定着しているため、危機意識の醸成は難しいと思う。しかし、災害が起きてしまってからでは取り返しがつかないため、岡崎市のような災害情報の提供、そしてきめ細かく具体的な地区防災マップの作成など、足利市でも粘り強く啓蒙していくことが欠かせないと感じた。

### ・斎場整備事業について

#### 【所見】

続けて、岡崎市の最新の斎場を視察した。民間活力を生かしPFI方式で建設運営がなされているとのことであった。山の中に、非常に大きな市営墓地に隣接して設置されていた。岡崎市においても、旧斎場の敷地内に建てかえたということである。

同施設では、利用者が安心して静かに故人を見送れるよう、プライバシーに

考慮した動線となっていることはよい点であると思った。また利用人数の調査を行い、通常35人以下の参列者がほとんどということから、待合室やお別れ室などを最大35人が利用する想定で設計している点がよく、足利市においてもデータを確認して設計すべきであると思う。またキッズルームが設置されており、子供たちが自由に遊べる空間が整備されていた大変よい施設であり、足利市斎場にもぜひキッズスペースを設置すべきであると思う。

ペット用の焼却炉が1台設置され、専用の出入り口があり、1日1回一緒に火葬している。ペットの体重で火葬を行い、遺骨の返却は行わないということであった。ペットの火葬炉については希望する市民の声もあり、設置する場合は参考になると思う。

岡崎市の場合、斎場に式場は設置していないということであった。そのため、駐車場のスペースもそれほど必要ないようである。足利市の場合は式場をどうするか、十分な検討が必要であると考えている。

## ○神奈川県秦野市

### 災害時等行動マニュアル策定の経緯と対策訓練の実施及び検証について

#### 【所見】

秦野市議会においては、平成23年3月11日の東日本大震災の教訓を生かし、大規模震災の際に議会として、また市議会議員としてどのような対応をしたらよいかということについて、平成29年3月23日に災害時等行動マニュアルを代表者会議で決定し、平成29年4月1日より運用を開始した。

大規模災害発生時の市議会議員の対応の課題として、個々の議員が地域の住民の要望を市の災害対策本部に直接要請することにより、市の災害対策本部が混乱してしまい、災害対応の妨げになってしまうことが指摘されていた。

そこで、大規模災害発生時に議員がばらばらな対応をして災害対策本部を混乱させないように、議会として統一のルールで対応するようマニュアルを作成したとのことである。そして平成29年8月26日午前9時から10時までに、全議員対象に災害等対策会議の立ち上げや議員の安否確認等の訓練を実施したということである。携帯やタブレット端末を使っただけの訓練であったが、連絡のつかない議員もいたということであった。やはり訓練を重ねながら実効性の高いマニュアルにしていくことが大切であると思った。足利市議会においても、早急に訓練を実施すべきと考える。